令和6年度

共同生活援助事業報告

メゾン・ド・あたご・ほりきり／コーポおかおな／レジデンスなこそ

メゾン・ド・あたご

実施事業	期 間	実 施 内 容 と 状 況
1. 利用者支援の基本理念、基本方針	R6年4月～ R7年3月	ノーマライゼーション、利用者のストレングス、ケースワークの原則を尊重し、グループホーム本来の目的である、利用者の自由度の高い生活を実現すべく、最低限のルールの下、活動の自己決定を尊重した支援を実施した。その中で、社会生活を営む上で必要な力を身に付け、また補う支援も実施してきた。
2. 生活支援と事業運営向上に関する事業	R6年4月～ R7年3月	1. 会議関係 ・世話人・職員会議（回数：1回／月） ※翌月の勤務の確認や利用者に関する問題等を話し合い、支援に生かすことができた。 ※リスク関連、苦情・虐待関連、感染症関連の報告も兼ねている。 ・個別支援計画策定会議（回数：1回／年） ※3月・9月に利用者支援のモニタリングを実施。その内容をふまえ、次年度の利用者支援に係る個別支援計画策定会議を実施した。これまでの目標の達成度と今後の支援の継続、否継続等を確認することができた。
3. 生活支援に関する事業	R6年4月～ R7年3月	1. 食事 当番制による利用者参加型の調理を実施。各々の目標に沿った調理支援を行い、意欲的に当番に参加することが出来た。また食材を配達する業者の利用により、栄養面で安定した食事を提供できた。 ※これにより、自分達で調理し、食す喜びを享受したと同時に、メニューの幅も広がった。 2. 金銭 収入に対し、何にどれだけ支出が必要かの計画をたてて、利用者と確認しながら金銭管理の支援を実施した。 ※利用者の方と確認しながら小遣い帳をつけ、自己管理への意識付けを図っている。これにより、計画的に生活を送る事が出来ている。また金銭の使い方に問題があればその都度見直しを行い臨機応変に対応した。 3. 身だしなみ 出勤時の衣類や髭剃りの状況などの確認を実施した。また女性利用者に対しては化粧のアドバイスも行った。 ※利用者による個人差はあるものの、少しずつではあるが、利用者の身だしなみの意識の向上につながっている。また時・場所・場合に応じた服装の支援を行った。 4. 健康 ・血圧体重測定回数：1回／月。利用者によっては毎日の血圧測定を実施。

		<ul style="list-style-type: none"> ・公的健康診断や婦人科検診：1回/年。 ※健康診断へ同行し、誘導等の支援を実施し、健康面が良好に保てるよう支援した。 ・感染症対策について、新型コロナウイルスやインフルエンザに備え、朝の検温や発熱時の抗体検査は継続した。 <p>5. 就労及び日中活動</p> <p>精神的な理由により、毎日の活動が難しい方に関して週5日にこだわらず、本人のペースを尊重して通所していただいた。また、就労先と連携して心身状態の情報共有を行い本人にとって適切な支援を行った。</p> <p>※随時声掛け、話し合い等の支援を実施してきた。</p> <p>6. 避難訓練（回数：1回/月）。</p> <p>実践訓練及び講話を行なった。</p> <p>※実際の避難経路の確認、避難場所への集合の意識化が図れた。</p> <p>7. その他</p> <p>余暇活動については、外出時の大きな制限はなく計画通り自由に出掛け、趣味のものを友人や職員と一緒に購入するなど、各々で楽しみを見つける事が出来た。ヘルパー付添による（移動支援）外出も同様、ほぼ制限する事なく実施した。</p>
4. 研修に関する事業	R6年 8月 R7年 2月 随時	<p>サービス管理責任者基礎研修 1名</p> <p>厚生労働省 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修（擁護者、使用者による虐待）1名 ※動画視聴</p> <p>職員会議時の伝達研修及び権利擁護に関する勉強会</p>
5. 虐待防止に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	権利擁護委員会活動を中心に、利用者の苦情解決に努めた。
6. 地域との関わり	R6年 4月～ R7年 3月	地域のごみ集積所のカラス防止網の片づけ当番や掃除など積極的に関わった。

コーポおかおな

実施事業	期 間	実 施 内 容 と 状 況
1. 利用者支援の基本理念、基本方針	R6年 4月～ R7年 3月	ノーマライゼーション、利用者のストレングス、ケースワークの原則を尊重し、グループホーム本来の目的である、利用者の自由度の高い生活を実現すべく、最低限のルールの下、活動の自己決定を尊重した支援を実施した。その中で、社会生活を営む上で必要な力を身に付け、また補う支援も実施してきた。
2. 生活支援と事業運営向上に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	<p>1. 会議関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人・職員会議（回数：1回/月） ※翌月の勤務の確認や利用者に関する問題等を話し合い、情報共有する事で支援に生かす事ができた。 ※リスク関連、苦情・虐待関連、感染症関連の報告も兼ねている。 ・個別支援計画策定会議（回数：1回/年） ※3月・9月に利用者支援のモニタリングを実施。その内容をふまえ、次年度の利用者支援に係る個別支援計画策定会議を実施した。これまでの目標の達成度と今後の支援の継続、否継続等を確認することができた。
3. 生活支援に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	<p>1. 食事</p> <p>当番制による利用者参加型の調理を実施。本人の能力に合った役割を担ってもらい、無理なく参加することが出来た。また食材を配達する業者の利用により、栄養面で安定した食事を提供できた。</p> <p>※これにより、自分達で調理し、食す喜びを享受したと同時に、メニューの幅も広がった。</p> <p>2. 金銭</p> <p>職員と利用者の話し合いの下、何にどれだけ支出が必要かの計画を立てて、金銭管理の支援を実施した。</p> <p>※生活が金銭的に不足しがちな方も、何とか計画的に生活を送る事が出来ている。また、将来に向けて、着実に貯金を増やしている方もいる。状況に応じて、今後の社会自立に向けて必要な財産管理等の支援も実施した。</p> <p>3. 身だしなみ</p> <p>出勤時の衣類や髭剃りの状況などの確認を実施した。</p> <p>※利用者による個人差はあるものの、少しずつではあるが、利用者の身だしなみの意識の向上につながっている。また、仕事や外出など時・場所・場合に応じた服装の支援を行った。</p> <p>4. 健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重測定回数：1回/月。利用者によっては毎日の血圧測定を実施。 ・公的健康診断や検診：1回/年。

		<p>※通院に同行し、健康面が良好に保てるよう支援した。また健康を意識した昼食を提案・実施した。</p> <p>・感染症対策について、新型コロナウイルスやインフルエンザに備え、朝の検温や発熱時の抗体検査は継続した。</p> <p>5. 就労及び日中活動 精神的な理由により、毎日の活動が難しい方に関して週5日にこだわらず、本人のペースを尊重して通所していただいた。また、就労先と連携して心身状態の情報共有を行い本人にとって適切な支援を行った。</p> <p>6. 避難訓練（回数：1回/月） 実践訓練及び講話を行なった。 ※実際の避難経路の確認、避難場所への集合の意識化が図れた。</p> <p>7. その他 余暇活動については、外出時の大きな制限はなく計画通り自由に出掛け、趣味のものを友人や職員と一緒に購入するなど、各々で楽しみを見つける事が出来た。ヘルパー付添による（移動支援）外出も同様、ほぼ制限する事なく実施した。</p>
4. 研修に関する事業	R6年 7月 8月 R7年 2月 随時	<p>苦情受付担当者研修 1名</p> <p>サービス管理責任者更新研修 1名</p> <p>厚生労働省 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修（擁護者、使用者による虐待）1名 ※動画視聴</p> <p>職員会議時の伝達研修及び権利擁護に関する勉強会</p>
5. 虐待防止に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	権利擁護委員会活動を中心に、利用者の苦情解決に努めた。
6. 地域との関わり	R6年 5月 10月	施設周り、ごみ集積所付近の清掃・木の伐採を行った。

レジデンスなこそ

実施事業	期 間	実 施 内 容 と 状 況
1. 利用者支援の基本理念、基本方針	R6年 4月～ R7年 3月	ノーマライゼーション、利用者の強さ、ケースワークの原則を尊重し、グループホーム本来の目的である利用者の自由度の高い生活を実現すべく、最低限のルールの下、活動の自己決定を尊重した支援を実施した。その中で、社会生活を営む上で必要な力を身に付け補う支援を実施してきた。
2. 生活支援と事業運営向上に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	<p>1. 会議関係 <内部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人、職員会議（権利擁護委員会・虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会・リスクマネジメント委員会含む）（回数：1回/月） ※主に利用者に関する直近の問題に対する対応の検討、研修内容や経営者会議内容の周知等を行った。 ・個別支援計画策定会議及びモニタリング会議（回数：2回/年） ※3月、9月の利用者モニタリング、利用者との面接内容等をふまえ、その後の利用者支援に係る個別支援計画策定会議を実施した。これまでの目標の達成度と今後の支援の継続、否継続等を確認することができた。 <p><外部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勿来田人地域障がい児者支援事業所ネットワーク会議（6月26日） ※地域の福祉課題等について話し合うことが出来た。 ・グループホーム事業所連絡会（11月20日） ※地域連携推進会議等について学ぶことが出来た。
3. 生活支援に関する事業	R6年 4月～ R7年 3月	<p>1. 食事 基本的に外部業者の管理栄養士が作成した献立の下、栄養バランスに配慮したメニューを取り入れた。クリスマス等には特別メニューを用意するなど、季節感を味わうことが出来た。</p> <p>2. 金銭 利用者のニーズに応じて実施。職員と利用者の話し合いの下、何にどれだけ支出が必要か、個別的に計画をたて、金銭管理の支援を実施した。 収入と支出のバランスの理解が困難な方にも、何度も教えることを継続した。少しずつ向上が見られている。</p> <p>3. 身だしなみ 出勤時の衣類や髭剃りの状況などの確認を実施した。身だしなみに関する意識化が困難な方もいたが、繰り返し声をかけることで少しずつ成長した。</p>

		<p>4. 健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血圧体重測定回数：1回/月。利用者によっては毎日の血圧測定を実施。→定期通院等医療と連携実施。 ・公的健康診断や婦人科検診：1回/年。 職員が同行し、誘導等の支援を実施した。健康面が良好に保てるよう支援した。 これにより、その日の状況に応じて就労の調整をする等、心身面の安定に繋げることが出来た。 ・コロナ対策 毎日の注意事項の周知、及び全員検温し、健康状態を確認するようにした。 しかし1月～2月に合計6名がコロナに感染し、収束まで一カ月を要した。 <p>5. 就労及び日中活動</p> <p>精神的に休みがちな利用者さんにも、日々会話によって安定につなげ、出勤できるように関わった。自立度の高い利用者さんには社会復帰を意識して関わった。個人差はあるが、概ね良好に出勤できていた。精神的に欠勤が多かった方も、徐々に休むことが少なくなってきた。</p> <p>6. 避難訓練（回数：1回/月）</p> <p>原発災害や津波に関する避難講話なども取り入れた。避難所への移動訓練も取り入れた。</p> <p>7. その他</p>
4. 研修に関する事業	R6年8月 9月 11月 11月	<p><外部研修>→各種伝達研修</p> <p>障がい者虐待防止研修・公式動画（1名） 福島県サービス管理責任者等更新研修（1名） 感染予防研修・公式動画視聴（1名） 普通救命講習修了（1名）</p> <p>※それぞれの研修参加、及び全体周知にて、知識の向上を図ることが出来た。</p>
5. 虐待防止に関する事業	R6年4月～ R7年3月	<p>権利擁護委員会活動を中心に、利用者の苦情解決に努め、利用者の権利が守られるような活動に努めてきた。</p>

6. 地域との関わり	R6年4月～ R7年3月	<p>1. 除草作業 レジデンスなこそこの敷地以外の場所の草刈りを実施した。</p> <p>2. その他 近所に訪れたヘルパーさんに駐車場をお貸しすることなどを実施した。</p>
------------	-----------------	---